

---

# 妖大騒動

月雅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

妖大騒動

### 【Nコード】

N3449L

### 【作者名】

月雅

### 【あらすじ】

友達の駄作漫画を小説化してみた

（第1回～2回があるかは確かでない）

平凡な高校生活を過ごしている主人公『水野とおる』は、ある出来事を境に『妖』（あやかし）と呼ばれる妖怪を退治することになった……

話についていけない急展開あり！

仕方ないです。

微妙な原作を描いた原作者、文才のない作者に免じて許してください。

## 二つの顔（前書き）

作者なりに頑張りました。

しかしフォローしきれませんw

もう、ホントごめんなさいm ) | ・ ( m

## 二つの顔

- - バタン - -

驚くほど大きく、屋敷と呼ぶのに相応しい立派な家から勢いよく飛び出した中肉中背の男子高校生は学校へ続く道を全力で走っていた。

- キーンコーン……………

「ハア…ハア…ま、間に合った」

午前8時40分。その男子高校生は教室内で切らした息と安堵の言葉を吐きながら席に着いた。

彼の名は水野とおる。

何処にでも居そうなく普通の高校二年生。

……………と言つのは日があるうちだけ。

日が落ちると、とおるは一本の刀と一匹の豚のような生物をつれて夜の学校へ行く。

”妖”を討つ妖退治の為に…………

何故そんな事しているかと言つと…………

- - -時は遡り- - -

とおるの屋敷の敷地には水野家に代々伝わって来た小さな祠があった。

その祠には井戸のような穴があり、その上に蓋がしてあった。

その蓋だけは外してはいけないと、祖父や親に毎日しつこく言われ続けてきたとおるだったのだが、

半年程前におおるは我慢が出来なくなり、とうとう蓋を開けてしまった。

しかし、その穴の中には四匹の妖が封印されていたのだ。

とおるは後悔したがもう遅く、四匹の妖のうち三匹は封印を解いた反動でそれぞれ散り散りになってしまった。

その時、一匹の大きな”火炎龍”と呼ばれる龍がおおるに話しかけた。

火炎龍は一本の刀を吐き出し、とおるに、

「この世の妖を退治しろ」

急展開にも程がある。とつっこみたいくらいの急展開で妖退治をすすめる事になった。

- - -

「あいつは白鳥だな」

と、とおるが連れていた豚が言った。

この豚はサポートブタ通称サポブタと呼ばれる妖の属性や能力を見通す事が出来る豚である。

手足がなく、羽が付いているという奇妙な形をしている。

「白鳥？」

「何らかの原因で鳥と鳥とが合わさった妖だ」

「とにかく二つにすればいいな」

とおるは腰にかけてあった刀を抜き、

「…ハア！」

と、地面を蹴り、白鳥に切り掛かる。

白鳥は翼で身を守った。

が、その瞬間とおるは高速で移動し、白鳥の後ろに回って、背後から白鳥を縦に一刀両断。

とおるは地面に降り立った。

しかし、

「な…なんで？」

振り返ると半分に切り裂いたはずの白鳥が、白と黒の二羽の鳥に分裂していたのだった……………。

黒と白の二羽の鳥……………

それを見たとおるは

『もはやただの鳥にしか見えない……………。』  
などと考えていた。

- そんな時…

「今日はホンマありがとねー」

……………はい??

白い鳥が喋ったように見えた。

そんなはずは無いと、もう一度良く考えていると、

「人前でその喋り方するなって」

次に黒い鳥が確かに声を発した。

……………はあああ!?

その後も二羽揃って会話をしている鳥を見ると「ハッ」と気付いたようにこちらを振り向き、白鳥になってしまった経緯と暴れた訳を話してくれた。

「いや、実はね…我々は夫婦なんだが、ある日変な奴達に押されてくっついてしまったんだよ。」

「で、その混乱で暴れちゃった訳。」

「いやーでも本当にここにきてよかったな」

「ええ。本当に真っ二つにしてくれるなんて」

二羽揃って頷きあっていた。  
そしてとおるに、

「本当にありがとねー」

と、お礼を残してガミガミと言い合いをしながら去っていった。

手を振りながら見送っているとおるにサポブタが話しかけた。

「それにしても…」

くるりととおるに振り向き、

「成長したな！」

と目を輝かせながら言った。

・・・がさがさっ

後ろの物陰から音が聞こえた。

「ちょっとお、なにになに？」

「アオイ？」

アオイと呼ばれた一人の少女と一匹のイタチが姿を現した。

岸野アオイ

高校一年生

訳あって氷融に出会い、それ以来妖退治をしている。

とおるとは同じ妖退治をする仲間である。

髪の毛は肩程で、身長はとおるの頭半分くらいまである。

「そんなところでなにしてたよ。」

「なにして、妖を探してたのよ。」

「…もうたおした」

「え？そうなの？」

じゃあ帰ろっ！

と言ってアオイと氷融が帰っていくとき、氷融は不意にサポブタを見て

あっかんべーと挑発した。

そして氷融はアオイについて帰って行った。

サポブタがプルプルと震えているのに気が付いたとおるは恐る恐るサポブタに声をかけてみた。

「…サポブタ？」

「……………」

「ちょ、サポブタ？」

「…ああ？」

サポブタは返事をしたと思ったら物凄い殺気を放ちながら振り向いた。

……すげえ殺気……

と、とおるでさえも思ってしまった。

「ちよっ！オレを殺すなよ。その殺気で！」

「…ふふふ、ころさねえよ。おまえはな」

「いや、他人も殺すなよ！殺すのは悪い妖だけにしてくれ！」

そんな感じのいつも通りな1日を過ごしたとおるであった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3449/>

---

妖大騒動

2010年10月9日04時25分発行